

気づきの質を高める発問の工夫例



気づきの質を高めるには、「対象への気づきの質を高める」「対象への気づきを自分自身への気づきに高める」という二つのアプローチがあります。
ここでは、対象への気づきの質を高めるための発問について紹介します。

気づきを言語化させる発問を工夫してみましょう。



<気づきの**拡大**を促す発問>

- ・ どうでしたか。
- ・ どんなことに気づきましたか。
- ・ 付け加えがありますか。
- ・ 似たようなことはありませんか。
- ・ そのほかにありますか。
- ・ 反対からみたらどうなりますか。

など

<気づきの**深化**を促す発問>

(二つ、三つの「気づき」などに対して)

- ・ 同じところがありますか。
- ・ ちがうところがありますか。

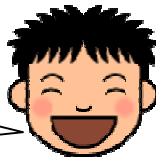
(四つ以上の「気づき」に対して)

- ・ 同じようなものを集めてみましょう。
- ・ どのように分けることができますか。

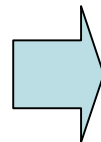
など



速く走るようになったよ！



どこを工夫したの？
どのくらい速くなった？



他と比べた気づきの表現

ゴムを2本にしたから
速くなったよ

他にたとえた気づきの表現

ビューンて新幹線
みたいに走るんだよ

自覚化された気づきの表現

おしりと背中をやさしく
だくと、安心するよ

<複数の気づきを**関係付ける**発問>

(因果関係)

- ・ ～が～のは、なぜでしょう。

(相関関係)

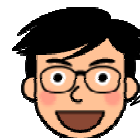
- ・ ～と～には、どのような関係がありますか。

(時間・順序の関係)

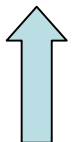
- ・ どのような順序だったでしょう。

(空間・分析)

- ・ どんなところにたくさんありましたか。



どうして お
となしくなっ
たの？



・・・
(無自覚)

